

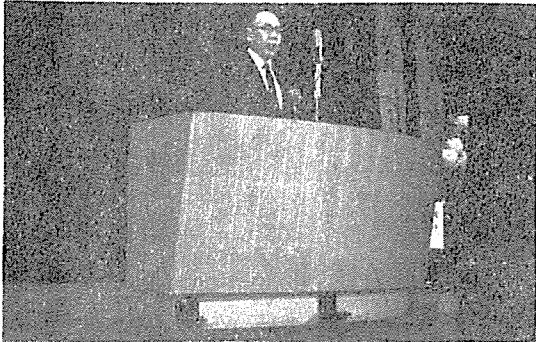
会報

No.20

静岡県公立高等学校PTA会長連絡会

もくじ

- ◇ PTA研修会
- ◇ 欧年の教育事情について
- ◇ 講演「大学紛争と日本の教育」
- ◇ 第3日地区別研修会
- ◇ 高校紹介



あいさつする藤森会長

五百余の参加で

PTA研修会

二月十二日 県民会館ホールに開催

(一) 開会のことば
 (二) 会長あいさつ
 (要旨)

木村副会長
藤森会長

今回はPTAの多くの方々からの要望にこたえて、巾を広げた研修会とした。

午前は、油井校長先生の海外教育視察のお話、午後は東京大学の林先生のご講演を中心にご研修いただきたい。

高校にもいろいろの問題が出てきて、家庭にも、社会にも責任はあろうが、私は学

校教育に少なからぬ責任があると思う。一部の良識のない教師のために、子どもに変な思想を植えつける。親も、学校まかせにし、今更どうしたらよいか判らないというように考えられる。

地区会を何回もおねがいがしたが、三月の卒業式や、四月の入学式も間近なので、二月中にもう一度、ご研修をおねがいで、私どものとるべき責任、果たすべき役割について、しっかりとご研修をいただきたいと思う。よろしくお願ひしたい。」

(三) 諏訪教育長あいさつ(要旨)
「お忙しい中にも、昨年に引き続き、ご研修をいただきありがたい。

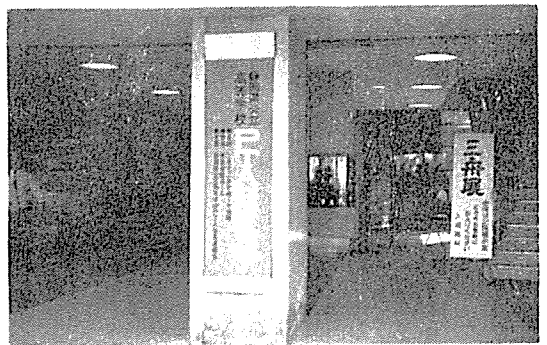
昨年の委託研修についても、ご熱心に研修され、問題の対応策についてもお考えいただけてありがたかった。

その成果のおかげで、心配された事態も最小限度に止めることができ、正常の教育が行なわれている。

文部省からも政治的教養の教育のあり方について見解を示されたが、私どもの考え方と全く一致していた。

大学の方も一応治まって、改革案が出され、改善されていくと思われる。

先立って、OEC Dから教育視察団が来られ、県内の学校を教校視察されたが、本



会場の玄関 県民会館

県の教育が前向きな姿勢で進んでいることを感じとっていただいたと思う。

目下、予算審議中だが、知事も教育に対しては深い理解を示してくれている。その一例として校舎建築立替金の利子補給があり、PTA費の負担軽減に努めている。

45年度の改築計画についても、全面的に認めて貰った。宿日直についても、委託パトロール方式を取り入れたりして、先生方の負担を軽減し、教育指導に専念してもらうつもりである。

教員定数については、国の標準法に基づく定数を満度に認めてもらった。従って自らの使命を自覚して教育に当って貰わなくてはならない。そのため新任の教員研修を、四月と八月に行なう予定である。

特殊学級についても、新年度から養護学校に高等部を設け、ろう学校の高等部も、46年度から統合して、教育の先実を図るつもりだ。

46年度から統合して、教育の先実を図るつもりだ。

46年度から統合して、教育の先実を図るつもりだ。

46年度から統合して、教育の先実を図るつもりだ。

P.T.A.のこのような研修は非常に大事なことで、明年度も県の委託としてお願いすることになっているのでよろしくおねがいしたい。」

海外教育視察講演

「欧米の教育事情について」

静岡城北高校長 油井 猛治先生
(紹介—藤森会長)

昨年九月から十月にかけて、37日間、静岡新聞社の委嘱を受けて、欧米の教育視察をされた七名の団長である——

(概況)

視察に当っては、いろいろの問題はあるが、日本の小中学校の教育課程の程度は高すぎるのではないかと、外国の子どもは、学習に眼を輝かせているだろうか、など考えながら赴いた。

1、外国のある学校へ行つて教室に入ったが、子どもはここにきて先生もあいさつして、何か、子どもに話してくれないかと言われた。どこでも教室の正面から入った。

日本では、先生が自己中心的で、他からの話は聞かせないようにするのが普通のような。外国では、小学校は特に総合的で、授業もゆつたりとゆとりがあるようだ。

生徒もぼくらの学校、ぼくらのお客さんといった応待ぶりである。

2、イギリスあたりで、中学校の段階ではまだ総合的というのだが、中味としては、分別した学習になっていた。生徒も決してそれを意に介しないようだった。将来の職業を考えて、別に平等の教育を

しなくても気にしていない。
教科書も図書館へ行つて生徒が選んできたもので、能力に応じて学習させている。従つて、英才も日本の英才よりは伸びていくことが考えられる。

3、日本では秘密主義で、競争心はあつても、協力はできないように思う。外国では、個性を伸ばし、将来、分業・協力ができるように、学習態度も、子ども的人格を中心に行なわれてるように思う。自分の能力を中心に学習を進めるのであるから、乗りこえていくという学習で、協力もあるし、眼が輝いている。

4、個人的に先生の所へ行つて教つてくるのであるから、先生と生徒と密着した姿も考えられる。それに、二時間が終つてコーヒータム、昼の給食時間など、先生と生徒との睦み合える時間がある。



欧米教育視察中の油井校長さん

5、外国で一クラス二十人以上は珍しい。スウェーデンは最も進んでいると思つた。人間教育ということからも、日本の教育の今後の課題であらう。

6、図書館や、講堂、体育館も学校からも、一般道路からも入れるようになっていて、社会人がいつでも利用できるようになっていっている。

(これから天然色スライド上映)
7、男の子もオムツの取りかえ。学校で習つたことを社会で認めてくれる。

8、東西ドイツの厚い壁についてどう教育するか。——二校長先生の話——

講演

「大学紛争と日本の教育」

東京大学文学部教授 林 健太郎先生

(紹介—白鳥副会長)

先生は昭和十年東京大学に在籍、歴史特に西洋史の研究家、著書も多い。今回東大紛争に苦勞された。式守校長、小沢校長と同級。

大学紛争については、いろいろの問題が出て、各層の方々から、たくさんのご意見が出されている。私は研究も浅いので、ただ体験を通して感じたことだけを申しあげてみたい。

慶応大学、中央大学の紛争から、早稲田大学への紛争と起つてきて、授業料の値上げ問題や、学生会館、管理問題など取りあげられた。

いささか対岸の火災視していたところ、43・1・29東大の医学部からストが起きて、次第に拡大され、あちらこちらに起きて、六月末には殆ど全国到る所の大学に紛

現実の中で教育する。平和と幸福について、別に東西ドイツの併合などは聞かない。それは政治家に委せればよい。9、典型的なドイツ美人モーアさんの話、戦後の教育の話、女性の魅力、愛情の問題など。

10、道路にいたずら書きする中学生。「水を節約せよ」
たぐさんの材料を盛つたお話であつたが省略。ワシントンの学校参観者の名簿の中に、諏訪教育長の名もあつたというから、中々細かいところまで視察されたことがうかがえる。(省略多謝)

争が起きた。外国にも起つて、一般に認識された。それぞれの大学によって原因は違つても、一ようの問題点を持ち、現代の社会問題となつているので、単に大学の問題でなくなつた。

私の経験から感じましたことは、原因はあるが、たとえ一部に正当性はあつても私には納得できない。

一昨年十一月総長代行となつたが、最後に一月十九日、安田講堂の大騒動となつた。文学部が最後まで残つたが、これも昨年から授業を始め、十一月をもってなくな



講演する林先生

り、正常を取り戻した。

一般的に申しまして日本には、社会問題を考えるのに、原因の還元論というのがありまして、すべて社会的問題から説明するところが一面的になりますと、何でも原因の中に含めてしまうと、その中の責任も抜けてしまう。

たとえば、盗みをした、生活が貧困であったからだという、貧困なら盗みしてもよい、ということにしてはならない。

物事は全般の中において、それが持つてゐる位置を見なくてはならないが、一面的なもの全体化が日本の欠点ではないかと思う。

公害、工場がある、工業が悪い、それは社会が悪い、こういったことも一つの欠点である。

大学紛争が、世界的な実情であるけれども、地域により、国により違いがある。一般的だから当然だとしてはならない。独得な

ものであることを見逃してはならない。

これには二種類ある。先進国における学生運動と、後進国における学生運動である。

韓国の李承晩政権が倒れたのも、インドネシアのスカルノ大統領の失脚もその一つである。

つまり、こういう国では、政治体制が独裁的で自由が抑圧されている。国民が貧困である。これが起るべき理由であった。こうした所では、知的に進んだ学生が紛争を起す。ヨーロッパの19世紀に似たようなことである。

もう一つの先進国の場合、独裁的でもなく、国民も貧困ではないのに起るのはなぜか、

一九六〇年、全学連が世界的に有名になった。韓国に学べ、トルコに起つこともあつて、トルコの学生に学べと言つた。現在の状況に対し、当時の運動家には、おかし

いと思われるだろう。先進工業国は、大学生が増加した。国民の生活水準が向上したので、これは共通点である。

ただ対応の仕方が違う。ヨーロッパでは、大学生は増えても大学は増設しなかつた。フランスのパリ大学は著しかった。一九六一年頃、私はドイツに居ましたが、ドイツは、国内に特色のある大学が多かつたからまだよかつた。パリ大学では、椅子さえもなく、立つて勉強してる学生も多かつた。イタリーはもっと悪かつた。

教授に会うのに書面で許可を得るとか、文部省でできたものの講義であるとか、ナポレオン時代からそのままであつたフランスに、学生運動も無理ないと思われた。アメリカでは、黒人問題とベトナム戦争

が原因である。黒人の大学生がふえて、平等にということ、白人の学生も同情して参加した者もある。

大学を卒業すると、ベトナムの戦地へ行かなくてはならない。ここに反戦運動が起つたのである。

日本はどうか、具体的な原因がはつきりしない。仮にあつてもただきつかけに過ぎない。マスコミ教育のせいだ紛争が起つたと言われる、教授と学生とのはなれという

が、正しい意見ではない。戦前からそうであつた。戦前も戦後も同じ状況であつたとすれば、問題は受取る学生にある。

戦前の学生は自分自身で解決した。個人の悩みは自分で解決しようとした。戦後は逆で、自分の周りのことを、他の者に解決を押しつけようとしている。

日本の場合、理由は稀薄である。処分問題を持ち出して、それが撤回されてもストはやまない。抽象的に社会が悪いなどという。認識がすぐベトナム戦争とか、日米安保などに結びつける。

斗争の仕方においても、ヨーロッパのそれと違う。過激な学生はヨーロッパにもあるが、日本のように、長期ストで、授業を放棄するということとはなかつた。一年にも及ぶストなんて考えられない。

日本では学生に同情する人もあるが、暴行、破壊など、処罰も、警官導入も当然だとヨーロッパでは考えている。ルールとか規律とかについては重く考えている。

こうしたことは戦後の教育に問題があり、学生が甘やかされて育つたこと、今一つは、社会科学の認識の間違ひがあつて、学生にああいう立場をとらせたと思う。

戦争直後の教育が、アメリカによつて手直しされ、よい点もあつたが、アメリカ的

プラグマチズムを条件の違う国に急に取入れたところに問題があつたと思う。

抽象的な、純粋な、合理主義で割り切りまして、でき上がったのが、アメリカのプラグマチズムというもので、ヨーロッパ自体においては、啓蒙主義というのは、言わ

ば、抽象的な理性主義と合理主義というもので、これをあてはめて実際に移したのが、フランス革命で、そのために、大きな改革もできましたけれども、同時に、頭の中

で考え、理屈で処理するということになり、宗教を否定して理性というものになることにすると、層をかえてしまうなどやつた。ここに弊害も起り、19世紀は修正して

いくことになつたが、歴史や伝統のないアメリカに啓蒙主義がうけつたが、すべての物の考え方が、具体的な状況とか、殊に、

伝統とかいふものに対する考え方が足りない。教育理念において、ジョン・デューイに

いたしましても、子どもの自発性を大いに尊重する。ペスタロッチ以来、そうなつたとは言え、子どもの個性を助長するのが、

教育の役目だとするのが、教育の根本であるが、殊にデューイにおいて強い。

日本の場合、躰をはばかるような風潮があつた。HRなどのこともよく知りませんが何か一々子どもに相談して結論を出させることが教育であるかのように考えたのではなかつたか。

個人と社会ということについても、抽象的に教えるだけであつて、具体的な問題として教えない。一種の信仰の中なら役立つと思ふんですが、我々はやつぱり、実際具体的な状況の中で生活していますから、

実際問題は、大人が子どもをある一定の方向に導こうと働きかければ、簡単に、子ど

もは自分で考えたようなつもりになって、人の言っていることをそっくり言ってしまう。そこでは自発性を尊重しているように見えて、実際には尊重していないことになる。

万事、戦後のデモクラシーは個人の権利を主張することは教えましたが、権利を主張する半面に、責任を伴うとか、義務を伴うとかいうことを認識づけられない。過保護になり、何か事が起ると、そういう欠陥が表われるのではないかと思う。

大学に入学して、昔だったら、自分のことは自分で責任をとってやるのだが、何でも人に押しつけ、相手を責める。

学生の言うことを聞くと、ずい分矛盾している。一方では教師と対等であると主張しながら、何か悪い点を見つけると、これは学校が悪いからと保護を要求する。即ち、一方では大人であるように言い、一方では子どもであるように言う。現在の学校制度の問題として考えなくてはならない問題だと思ふ。

可愛がられ、勉強させられて大学へ入ったがつまらない——この不満を学生運動参加でぶちまける。また、いけないとも考えないで黙って見ている。戦後の教育に問題があったと考えられる。

最近では学校教育もかなり改善されてきてよくなったと思う。

今一つは社会科学の立ち遅れということ、学生像に対する対策の立ち遅れ。大学がふえると、大学の先生の質が低下する資格のない人も大分、大学の先生になつてくると思う。顕著なものが社会科学である。

経済学などでは、ジャーナリズムで活躍した人が先生になり易い。こういうような人は、マルクス主義経済学が多かつたよう

に思う。

戦後マルクス主義に合わないことが多くなつた。そういう意味で新しい研究者が出てきた。マルクス主義理論というものは、理屈そのものでは、素人にも判り易くできているから、現実の経済を扱う場合にはやりきれないとしても、理論講義をしている分には素人でもできるわけで、素人マルクス経済学者ができたと思う。

ジャンペーターの社会主義民主主義という書に、「現代の社会には、マルクス経済学者は居ないが、文学者、哲学者、医学者といった人の中には、たかさんのマルクス経済学者がいる」と書かれている。

そういう人が、社会教育学づきますと、これが政治運動に結びつく。殊に労働組合などで、現実と非常に遊離した理論が、イデオロギーに根を張つてしまふ。そうすると、現実には、まあ今度、社会党の議席も減つてしまつたわけ。労働階級の立場からではなくて、頭からそういうことも言わなくてはならない。日教組なんかの研究集会で、社会理論、要するに、何か革命を起させることが教育の目的であるような式のことを言われるのですが、私はそれを知りませんが、現実の日本の社会をみますと、今の社会を社会主義に持つていけるのか、また、

そういう必要があるのか、そういう人たちは、実際の経済学を研究しているわけではないから、何か、そういう陋固たるものを信じてしまひますと、すべてそこから一応説明するし、これと違つたことをいう人間に対しては悪人みたいに言い、また、組織を動かす、他の発言ができない。

今日、マルクス主義は、社会における有効性というものは全く否定されるといってもいいわけで、学問的心理とは違つた認識

が、宛も学問的であるように強く説かれていゝというのが日本の特徴である。

そこで、学生運動の関係で言いますと、全共斗の運動というのは、実は人間解放の運動であるという。これは確かに工業社会の中にあつては、人間疎外と言われる理由には私には判る。ところで、現在の学生が、人間疎外の状況にあるかという、私はそれは思わない。

彼らの掲げるスローガンは、単純なマルクスレーニン主義の方式であつて、この点もヨーロッパと違ふ。彼らは、社会が悪い、独占主義は帝国主義で、戦争につながる、だから今の体制を破壊しなければならぬ、という式の単純な社会主義認識である。

ところが、こうした認識というのは、案外、学校の教師が、今の社会は資本主義だとか、帝国主義だとか、しか教えない。或いは、生活のことしか考えない。

運動してない人でも、漠然と、資本主義というのはよくないものだ、社会主義がいんだと考えるのである。一体、社会主義とは何なのか、つきつめて考える人は余り多くない。何となく今の体制が悪い、どういう意味かと問われると答えられない。

要するに、大学紛争によつて、日本の欠陥と、改革案が出てきたことは、ある意味ではよい方へ考えさせられる。然しながら大部分は、彼らが革命家であるとか、思想家であるとか、何か本質的な問題を提出したとか、私は感心しない。学生が建物を占領して、やりたい暴行三昧をやつていゝ時、警官を導入して立ち退かせることは当然だと考えている。

学生が甘つたれているのは、もう一つは、教授が思い違いしているということ。

あやまつてやれば静かになるだろうなどと、あやまるべき理由のないものであやまつたりすると、かえつて治まらない。

また、思想の背景ともいうべき、進歩的思想の人たちが、学生の一歩攻撃的にするところであつた。

一般的に物を大切にしないことを立証したのが今度の大学紛争で、そういう意味では、大きな教訓を与えたと思ひます。(省略多謝)

質疑応答

(一) 大学改革について将来どうあるのが望ましいか。

(答) 学科別、講座の種類など時代にマッチさせたい。

教授の研究教育と、管理面の分別
教養課程と専門課程
学生参加の制限

(二) 大学の改革が必要なら内部から外部へ向かつてくるべきものではなかつたか。

(答) 改革の要否について(省略)
(三) 高校生と頭髪問題と、服装問題について
油井校長先生のご意見は。

(答) 服装は、本来は自由であつてよいと思ふが、経済的に不安が出ないか、私は制服制などに気を使わないで、学業に本来の精力を打ちこめ、なりふり構わず勉強するのが高校時代だと言つたことがある。男子の場合、長髪を許さないか。

先生方の中に、制服は子どもの自由を抑圧するものだと言ふ形式論を唱える者があるが、低い自由を考えないで、もつと、自由とは子ども自身が伸びていく可能性を發揮する自由がある。それを教育の中で気づかせ、そこへエネルギー

を注ぎこむべきである。それを教育の中で気づかせ、そこへエネルギー

1を集中して、価値を自覚させていく、そこに本質があると私は思う。
④大学の入試や、大学側で気を使われている点について。

(答) 本年は入試は行なわれる。

入試に妨害があつては大へんだと、対策は非常に慎重だ。起つた場合も想定して対策はたてている。

学生運動も、今は沈静だがまだわからなぬ。

第三回地区別研修会

(一) 研修協議題

- 1、高校教育の正常運営の推進について、研究し、協議する。
- 2、生徒指導について協議する。
- 3、地区のPTA協議会の設立に関して協議する。
- 4、特別研修会の反省とともに、研修会のあり方について協議する。
- 5、功労者の表彰方法について意見を求める。

(二) 開催日

賀茂地区	二月二日	稲取
田方地区	二月五日	伊東市
沼駿地区	二月二十六日	沼津市
富士地区	二月十日	吉原高校
清水地区		
静岡地区	二月二十八日	日興会館
志摩地区	二月二十三日	藤枝東高
小笠原智	二月十四日	掛川西高

先に申しました根本問題は、日本の思想界一般とか、戦後の教育一般にかなり根強くあるから、万事終れりとは考へていけない。

閉会あいさつ(竹内副会長)

—— 今回の研修会に、社会教育課の方々、諸団体の方、静岡市内高校から、多数お手伝いをいただき、竹内副会長から感謝の言葉が述べられました。——

磐田地区 二月二十三日 磐田北高校
西遠地区 二月二十一日 浜松市聴涛館

謝辞

今期、特に忙しい中を高校教育擁護のため、第三回地区別研修会を開きになり、重要な多くの協議題について、ご研修くださいましたことを厚くお礼申し上げます。

県教委におかれましても、殊更忙しい折でありました時、貴い指導助言をいただきまして、まことにありがとうございます。

ここに謹んで御礼申し上げます。
三月一日 会長 藤森常次郎

家庭教育の欠陥は

どこにあるか

〔研究協議題〕(2)

各地区研修会の中で、この問題を鋭く衝

いているものをあげると、

1、子どもの言いなりになっている家庭が多いのではないか。(過保護)

小使銭、要求品の購入、外出、旅行その他、娯楽等

2、金や物のありがたさを感じさせていない。

3、感謝の気持が育てられない。
親のありがたさをどんなところで感じさせるか。

その他の恩恵に対する感謝の念を、どの程度、子どもが持っているかを親は知り得ているか

4、子どもの行動を感知していない家庭がある。

学校へ行つてたと思つたら、学校を休んでいた。
電話がかかつてきても、友人か、男子か、女子か、知らない親。

5、父母の一人が、ただやかましますすぎる場合。(ビジョンがない)

6、子どもを制する一方で、自主的な、やる気を起させない。

7、親の子どもに対する観察が足りない。

8、親の思慮と教養の不足。

9、レジャーもよいが、たしなみを欲しい。

10、余暇の活用がまずい。

11、職業観を喚起したい。

——その他、多くの問題があると思うが、地区研修に出た事項のみ列記した。研修資料「現代学生との対話」一八九頁「家庭での対話」の一説を要む。

1、従来のものを移行すればよい。

2、設立に賛成で、理事会に一任する。

3、本部の名称もかえていくことに賛成。

4、地区の役員ぐらゐに話しておけば賛成できる。

5、会長連絡会をPTA連絡会とか、PTA協議会とした方が運営に便利なら、それでよい。

6、名称をかえるなら、単位PTAの少くとも理事会に計つてからにした方がよい。

7、下部組織としての地区連絡会は、県の組織に準ればよい。

8、召集は、会長か副会長ぐらゐにし、その都度、会長がきめればよい。

9、単位PTAの集合体として、名称を変更してよからう。

本年度研修会の反省について

〔研修協議題〕(4)

1、研修会の時期を早く。

2、昨年のように、会場を三ヶ所にすることはよい。

3、単位PTAの会員全部に渗透を図りたい。

4、理解を深め、また渗透を図るため、記録を多く配布されたい。

5、ある学校では、父母教師が一堂に会して話し合う機会を設けたが必要なことである。

功労者の表彰に関して

〔研修協議題〕(5)

1、県の表彰から全国表彰へもっていく。

表彰のわくも広げてほしい。
2、県事務局へ任せる。
3、会長在任三年以上という線も出たが、学校によっては困難で制限は設けない方がよい。

価値高く偉大

光栄の卒業式

——農業経営高等学校——

会報15号ののつて、ここに静岡県の誇る農業経営高校ありと、世界に向かって、栄養補給をしようと、理想を現実求めて、猛烈に勉強する、この学校にも春三月は早く訪れ、いよいよ、実社会に巣立ち行く日を迎えるという、晴れの卒業式を教頭小沢先生にうかがってみた。

「卒業式は三月十七日、十時から十五時三十分まで行なわれる。参集する方々は、卒業生一四八名のほかに、同窓の卒業生、保護者、しかも在学生も保護者も、一、二年生の希望者を含めている。

平素なら訪れるであろう知事も、当日、天皇陛下下田市へ行幸とあって、臨席不能と思われるので、副知事が代理することになろう。

卒業式は、一部から三部に分けられ、第一部では、當農五ヶ年計画論文の発表を、一四八名中、一名が代表して行ない、普及員の選考審査も行なわれる。男子は、當農計画、女子は、家庭経営計画である。

これこそ、本校の特殊性を生かしたものと云えよう。平素、農業経営簿と家計簿をつけている生徒は家族と共に研修協議を進めているうえに、一人々々へ先生の指導助言が後楯となつている。昨年上々の好評

を受けている。

第二部は、午後行なわれ、卒業証書の授与式に続いて校長式辞、副知事を始め、名士の方々から、同窓生の代表まで、激励の祝辞が送られることであろう。

第三部では、在校生の祝辞と激励の言葉、卒業生の答辞、卒業生の保護者からの謝辞が述べられることと思う。」と。

大学の紛争から、高校生の政治活動へ、そして、ややもすれば、学校の秩序も乱さ

れ、大事な卒業式も、落ちついてできないかも知れない不安の中に、いずれの高校も簡素と、厳肅とを希いつつ、慎重に検討を重ねてのうで拳式されるのである。

その中には、君が代の斉唱も、国旗の掲揚云々も、送辞、答辞も、在校生の参加の可否も、その他、いろいろの問題が、管理者と職員と、生徒との間に、取沙汰されることであろう。

いまわしい心の含みを捨てて、ひたすらに、誰もが祝福を送る中に、理想を胸にして巣立つ人々は、如何に幸福なことであるか。

この幸いと対比して、校歌の中に巣立ちたい願いの子が幾人かあつても、それが聞かれずに心残りしていく人。共に手をとり合ってきた年下の学友がありながら、在校生にも送られず門を出てゆく人の姿があつたとしたら、いかに淋しいものであろうか。そうした、錯綜した気持から、私は、農業経営高校の卒業式に感動を多くしたのであつた。

(事務局)



富士地区研修会で話す学校教育課の井口補佐

世界のお友だちを 笑顔で迎えよう

静岡県がうむ 世界ジャンボリー

はるよ来い、なつよ来い。来年八月やつてこい。

その来年八月、富士山麓の朝霧高原に、世界二〇カ国から、二万を超える青少年が、北から南から、東から西から集まつて、第十三回世界ジャンボリーが開催されることになる。

竹山知事は、

「今こそ日本は頑張らなきゃならん。民族としての自信と信念を、今の若い人たちに持たせにゃいかん。私は、世界ジャンボリーをやるのも、理屈でなしに、世界の子どもと肩を合せてみれば、自分たち民族の立場というものを、認識させることができると思つている。アメリカも、中共も、みんな努力してるんだ……。」と語っている、この世界ジャンボリーへの期待は大きい。

ところで、藤森会長はいつも言う。「人がやるんだ、みんながやるんだということなしに、自分たちが、自分たちのごととしてやるのが大切だ……。」

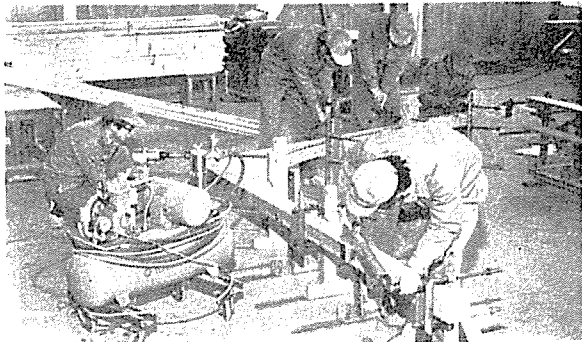
この藤森会長さんたち22人が発起人となつて、このジャンボリーに対し、歓迎体制確立を促進することになった。

世界の若人を迎えて、美しい日本をあらわす静岡県を見せてあげたい。

美しい日本、美しい静岡県、それはどんなところに表わされるだろう。不用意な電柱の貼紙や、街角に散らばる紙屑に代つて、到る所に見られる美しい活花、席もゆすつて親切に話す美しい気だて、それも一時的でなく今から心掛けよう。

産業、文化、観光、何をあげても、何を掲げても輝やかしい日本の象徴としたい。相当の資金も要ることであろう。みなさんの手で、みなさんの心で、世界の人々を温かく迎えていただきたい。

勿論、本県青少年の、正しい国際認識を高め、広い世界的視野を育てることを本旨に——。(文責—事務局)



天竜林業高等学校の木材加工

本校は、県下唯一の林業専門実業校として、天竜材（木材加工科）で代表される。

天竜林業高等学校

皇居の内装にもひと役 全国屈指の集成材製造

（高）（校）（紹）（介）

—わが校の誇り—

静岡県下の公立高校は八十六校、
郷土の明日を担って、やがて社会に
雄飛する生徒は、今、それぞれの誇
り高い学園に、学び続けている。

本校は、県下唯一の林業専門実業校として、天竜材（木材加工科）で代表される。スギ、ヒノキの林業地帯に位置を占め、林業の後継者、治山治水の技術者、木材工業分野で活躍する木材加工技術者を養成し、各専門分野に生徒を送り出している。この中で、「実験室規模で最大」と自慢できる木材加工科の「集成材」の製造を紹介する。この学科は、全国的にみても、奈良県の吉野林業高校と、本校の二校が持つだけというユニークの存在である。

集成材とは、薄い板を何枚もはり合わせた木材のことで、戦後、理想的な建築材として登場した。強力な接着剤が開発されるに従って集成材の価値が高まり、昨年完成した皇居新宮殿の内装にも、本校の集成材がかなり使用された。

集成材の特徴は、(一)割れや反りがない。(二)直線、曲線を自由に造型できる。(三)強度は同質同型のもので集成した方が一・五倍も強くなる。(四)重木構造材は燃えにくい。

など、理想的な条件を揃えている。集成材製造の実習室には、アーチ型の彎曲集成材を製造できる設備がある。これが特殊なもので、一昨年の学校祭には、巾8M、高さ5Mのアーチ型の骨組材を製造し、プレハブ建築の構造材料として完成した。

木材加工科の生徒は、木材加工週番実習で放課後、年間フル生産の通直集成材と、基礎の製造に取り組んでいる。これは総合実習として、製材、乾燥、加工、接着試験と一貫した製造技術の習得をするためである。十兆円住宅産業を支える木材工業。この分野で活躍する技術者としての資質と、使命感を自覚し、産業人としてのよりよい製品の創造と開発を目ざして実習にとり組んでいる。

おわりに、木材加工科では、次の言葉を

モットーに、教師、生徒ともども努力している。

「前向きに創意と工夫をし、自ら進んで仕事を創造する人間となろう。」

(教諭 和田久夫)

この学校を考察すると、生徒の一人々々が産業人になるんだという、自覚にもえて、社会の発展を一手に担おうとするかのような強い信念を持って、研究と実習を日ごと繰り返しているように思われる。

そこには、弱気はあっても紛争はない。遊ぶことや争うことの余裕はない。一刻一秒の学ぶ時間をほしいのである。自己の欲望も、時には自我も捨てて……。

(事務局)

野生味と人情味と……

ロマンチックな夢が生きている

楽しい学園

土肥高等学校

春の日ざしの明るい、青い空の下、伊豆の西海岸に新時代の波も寄せるであろう、県立土肥高校をのぞいてみる。

県下で一番小さい高校と言われながら、いつか、スポーツテスト、コンクールで県下最優秀校に選ばれた学園である。それもその筈、体育主任の先生を中心に、平均年齢三十一才の先生方が、今日も生徒と一緒に体力づくりに熱を入れていた。

この学校に、スポーツ教室というのがあ

る。昨年春のスポーツテストで、結果がよくなかった女生徒を中心に、日をきめて、放課後、陸上競技部など、運動部の生徒さんが指導者になって、熱心に練習を開始した。それは、十人程度のグループをいくつかに作り、それぞれ、上級生も下級生も一緒に頑張って励むのである。どうして話し合ったものか、一人の反対もない。素直に受け入れて、わが健康、わが体力を育てているのである。



体育に励む土肥高校

テスト当日は持久走で、遙かに遅れた生徒にも盛んに声援を送っている姿は、いつ見ても涙ぐましい感激を覚える。走り終つて全く疲れ切つたという表情の子も居たが、さすがに落伍する者は一人もなく、友だちの友だちもみな友だちだと、いたわつてくれる様子はありがたい。

この学校の生徒さんは、スポーツが好きなんだろう。校区内の小甲学校も、スポーツ愛好で、指導者にも恵まれているようである。

高校へはいると、スポーツに縁遠くなる子もあるのが普通だが、土肥高校は全部の生徒にスポーツを愛好させ、まず、体力づくりから、知徳涵養へと結びつけようとするようである。

高校ぐらゐになると、生徒の精力はぐんと伸びるから、そのはげ口がないと悪い方へ走りやすいという心配もないではない。

体位が向上すると、学力も伸びますよと先生はおっしゃる。言いかえれば自信を深めるといふことでもあろう。それにしても先生も一緒になつてとは、羨ましい限りである。先生方が、お忙しい中に、そうした余裕をみせてくださることは、簡単にできることではないが、生徒さんにとっては、見ていてくださるといふ張り合いと、近頃言われる、先生と生徒の間の隔絶という言葉をなくせて、一層親しみと信頼を増すことであらう。

土肥高校にも春三月は慌しく、早や、卒業式を迎えようとしている。見れば三年生であらうか、みんなで力を合わせて、コンクリートねりをしている。

静岡ろう学校に電動オルガン

—— 県下高校のご援助に感謝 ——

このほど静岡ろう学校に、三万八千円相当の電動オルガンが購入された。これは、みなさんからのベルマークによる援助が実つたもので、同校の父兄や先生方は痛く感謝している。

このベルマークは、昭和45年一月分で、静岡ろう学校から本部へ送られたものは、五七、三三〇円(六回目)に当り、皆さんから贈られたものを、この学校のお母さん方が感謝の念をもって、一枚一枚より分け、会社別に、点数別にして送つたものである。この中には、封筒で送つてくださる無名の方がある。この封筒は、時には切手も貼らず、県民会館へ届けられるので、静岡市内の方ではないかと、その名を欲しがっている。

静岡ろう学校のお母さん方は、

記念の花壇が作られて、やがて美しい花を咲かせることであらう。

思えば、野生味と、人情味と、日本の古いロマンチックな夢が生きている、楽しい学園である。

太平洋の荒波の押し寄せる伊豆の西海岸、ここにも、時代の波はいろいろの形で押し寄せるかも知れない。しかし、伝統的な精神の豊かさを基盤とし、スポーツ愛好で築かれる強い体力と精神、それをもとに知育徳育の進められるところ、いまわしい黒い影は姿見せないであらう。

ああ、美わしの学園、誇りある学園。校長先生、教頭先生、先生方ありがとう。

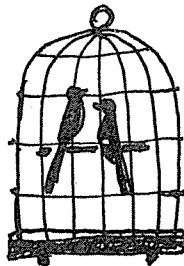
(文責：事務局長)



ベルマークを処理するお母さん方

「めんどうだと言わずやり抜くことが大切で、塵も積れば山となる、という諺を身をもって体験しました。喜びは格別です。多勢の見知らぬ人のご厚志に感謝するだけでなく、私たちも、積極的に、すべての助成活動へ参加して、社会への奉仕をしたいと思えます。」

お世話をくださるこの学校の、山本先生、山田先生に、改めてお礼申し上げます。



＊編集後記＊

P T A 研修大会は、油井校長さんと、林先生のお話をいただき、非常な好評をいただきました。

林先生をお招きできたのは、式守校長先生のお心尽しで、校長協会のご後援を感謝いたします。

各地区のご研修もご熱心で、おたがいの情報交換を深め、高校の正常推進は、全くP T A の協力のおかげだと思えました。今後ともよろしくおねがいします。

昭和四十五年三月十日印刷
昭和四十五年三月二十日発行

静岡市追手町県民会館社会教育課内
静岡県公立高等学校

P T A 会長連絡会
電話静岡八六一
郵便番号 四二〇